

No. 20

1. 心肺蘇生法の流れについて、枠内のA～Dを（ ）内に正しい順番になるように記入しなさい。

傷病者を発見：①呼びかける → ②（ D ） → ③（ B ） → ④（ E ）
→ ⑤（ C ） → ⑥AED到着 → ⑦電源を入れる → ⑧（ A ）
→ ⑨心電図の解析（電気ショックは必要か）

A：電極パッドを装着 B：119番通報 C：胸骨圧迫もしくは心肺蘇生（胸骨圧迫＋人工呼吸）
D：大声で叫び応援を呼ぶ E：呼吸をみる

2. （ ）内に正しい数値を記入しなさい。

1) 心肺蘇生法とは、成人の場合、胸骨圧迫（ 30 ）回＋人工呼吸（ 2 ）回を繰り返す方法である。胸骨が約（ 5 ）cm沈む強さで、100～120回/分の速さでおこなう。

2) 小児の心肺蘇生は、胸の厚さの約1/3沈む強さ、乳児の場合は指（ 2 ）本で胸の厚さの約（ 1/3 ）沈む厚さでおこなう。

3. （ ）内に正しい語句を記入しなさい。

1) 反応がある人の異物除去の方法として、成人や小児に対しては、①（ 背部 ）叩打法や②（ 腹部 ）突き上げ法がある。ただし、②の方法は、妊婦や乳児に対しては行わない。

2) 反応がある乳児の異物除去の方法として、（ 背部 ）叩打法や（ 胸部 ）突き上げ法がある。

3) 止血法とは、出血部位を確認し、ガーゼ、ハンカチ、タオルなどを重ねて出血部位に当て、その上から（ 圧迫 ）して止血を図る方法が基本である。救助者は、感染症を守るために、可能であればゴム手袋を着用するか、（ ビニール ）袋を手袋の代わりに代用する。

4) 大量に出血している場合や、確実な止血法を行っても出血が止まらない場合、ショックの症状がみられる場合は、ただちに（ 119番 ）通報をする。

4. 正しい説明のものには○を、誤っている説明には×を記入しなさい。

1) 救命処置は、救命の現場に居合わせた市民がおこなうが、AEDは感電の危険性があるため、救急隊員の到着を待っておこなう。（ × ）

2) 救命の連鎖は「心停止の予防」「心停止の早期認識と通報」「一次救命処置」「二次救命処置と心拍再開後の集中治療」の4つの輪で構成されている。（ ○ ）

3) 胸骨圧迫を続けて行うのは疲れるので、10回圧迫したら休憩をとる、を繰り返した。（ × ）